

# 病害虫発生予察情報 第7号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 10月の病害虫発生予報

### 【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
大豆	<b>紫斑病</b>	<b>やや多い</b>	果樹	ニホンナシのナシヒメシンクイ	並
野菜	白ねぎのさび病	少ない		ニホンナシのカイガラムシ類	<b>やや多い</b>
	白ねぎの軟腐病	少ない		<b>ブドウのべと病</b>	<b>やや多い</b>
	<b>白ねぎの黒斑病・葉枯病</b>	<b>やや多い</b>		ブドウの黒とう病	並
	白ねぎのネギアザミウマ	少ない		カキ（三社）の炭疽病	並
	白ねぎのネギハモグリバエ	少ない		カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	やや少ない
	白ねぎのシロイチモジヨトウ	並		モモのせん孔細菌病	並
	ハスモンヨトウ	やや少ない		モモのカイガラムシ類	並
	タバコガ類	少ない		<b>チューリップの球根腐敗病</b>	<b>やや多い</b>
果樹	果樹のカメムシ類	並		<b>チューリップの皮腐病</b>	<b>やや多い</b>
	リンゴの褐斑病	並	きくの白さび病	少ない	
	リンゴの炭疽病	並	アブラムシ類	少ない	
	リンゴのカイガラムシ類	並	ハスモンヨトウ	やや少ない	
	ニホンナシの黒星病	並	タバコガ類	少ない	

## I 大豆

### 1 紫斑病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

#### 【多発要因】

・主要感染時期である8月中～下旬の降水量がやや多かった（平年比178%）。

(3) 防除対策

- ・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・刈遅れは発病を助長するので、刈り遅れに注意し、収穫後は速やかに乾燥する。

## II 野菜

### 1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

#### 【少発要因】

・9月25日調査の発病株率は0%で平年（0.6%）より低かった。

(3) 防除対策

・防除指針 98 ページ参照

### 2 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

#### 【少発要因】

・9月25日調査の発病株率は0%で平年（6.1%）より低かった。

(3) 防除対策

- ・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- ・防除指針 99 ページ参照

### 3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

#### 【多発要因】

・9月25日調査の発病株率は14.0%で平年（8.4%）よりやや高かった。

(3) 防除対策

- ・さび病の防除に努める。
- ・防除指針 99 ページ参照

#### 4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 9月25日調査の被害株率は13.0%で平年(57.6%)より低かった。

- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 100～101 ページ参照

#### 5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 9月25日調査の被害株率は9.0%で、平年(24.6%)より低かった。

- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 100 ページ参照

#### 6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠

・ フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は147.0頭で、平年(166.8頭)並であった。

- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 101 ページ参照

#### 7 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

・ フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は398.3頭で、平年(469.9頭)よりやや少なかった。

- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 67～136 ページのハスモンヨトウの項参照

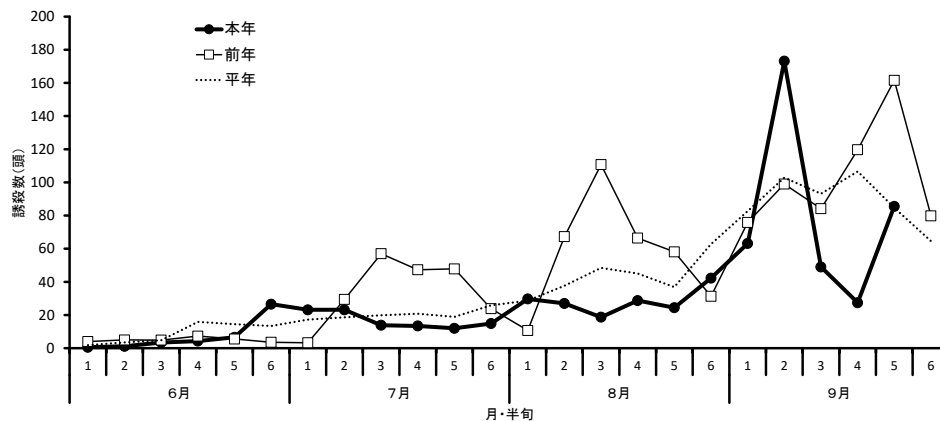


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数推移

## 8 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
 (2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが28.7頭で平年（56.2頭）より少なく、オオタバコガも37.4頭で平年（99.9頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 67～133ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

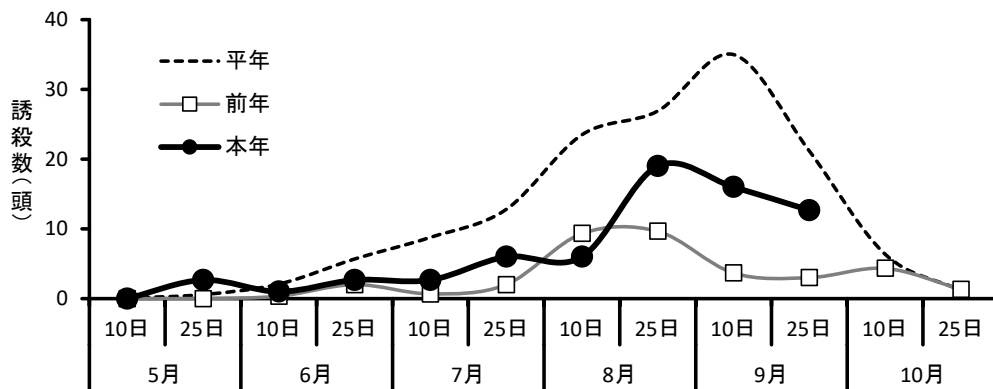


図2 フェロモントラップによるタバコガの誘殺数推移

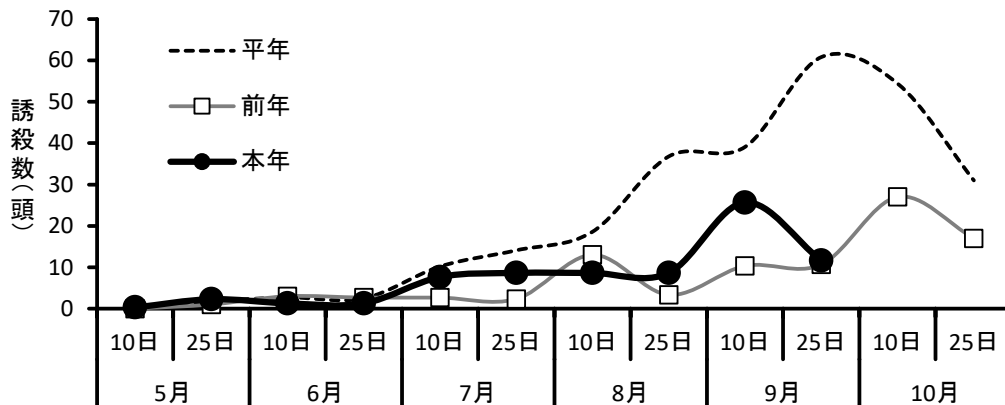


図3 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数推移

## Ⅲ 果 樹

### 1 果樹のカメモシ類

- (1) 予報内容 発生量：並  
 (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬のチャバナエオカメモシの誘殺数は5.4頭で、平年（4.2頭）並であった。

- (3) 防除対策

- ・発生状況に注意し、園地への飛来が見られる場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等）を散布する。なお、合成ピレスロイド剤は天敵等に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の

使用にとどめる。

- ・収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：リンゴ 145～146、148～149 ページ、ニホンナシ 156、159～160 ページ、カキ 171 ページ参照

## 2 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在の発生量は平年並であった。
  - ・10月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・長雨が予想される場合や発生が多い園地では、殺菌剤を散布する。なお、SDHI 剤（混合剤を含む）の使用は、原則年2回以内とする。
  - ・薬剤の散布前には主幹部や主枝上の徒長枝など樹幹内部の混み合っている新梢を整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤到達性を向上させる。
  - ・り病した葉や果実は見つけ次第、園地外へ持ち出して処分する。
  - ・発生の多かった園地では、病原菌の越冬密度を下げるため、休眠期に被害落葉をほ場外へ持ち出すか乗用草刈機で粉砕するなど、落葉処理を徹底する。
  - ・防除指針：139、141～143、147～148ページ参照

## 3 リンゴの炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
  - ・発生の多い園地では、効果のある薬剤を散布する。
  - ・収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
  - ・防除指針：143、147～148 ページ参照

## 4 リンゴのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在までの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・発生の多い園地では、翌春の発芽前にスプレーオイル（50倍）を散布する。
  - ・多発樹では、発芽前のスプレーオイル散布前にワイヤーブラシなどで削り落とす。
  - ・防除指針：139、141、149 ページ参照

## 5 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・10月の降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・芽基部感染による病原菌の越冬密度を下げるため、10月上中旬以降、10～14日間隔で2回秋季防除を実施する。また、発生の多かった園地では、11月上旬に殺菌剤の追加散布を実施する。
  - ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
  - ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・り病落葉による病原菌の越冬密度を下げるため、落葉処理（園外に持ち出し適切に処分、乗用草刈機による粉碎処理、ロータリによる土壌すき込み等）を徹底する。
  - ・防除指針：152～153、158 ページ参照

## 6 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬のナシヒメシンクイの誘殺数は17.3頭で、平年（15.4頭）並であった。
- (3) 防除対策
  - ・被害果は見つけ次第園地外に持ち出して処分する。

## 7 ニホンナシのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・現在までの発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
  - ・発生園では、翌春の発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。
  - ・多発樹では、発芽前のマシン油乳剤散布前にワイヤーブラシなどで削り落とす。
  - ・防除指針：150、152、159～160 ページ参照

## 8 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・現在の発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
  - ・発生の多い園地では、収穫後に銅水和剤又は硫黄・銅水和剤を散布する。
  - ・病原菌の越冬密度を下げるため、被害落葉は集めて園地外に持ち出して処分する。

- ・防除指針：161、165ページ参照

## 9 ブドウの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・病原菌の越冬密度を下げるため、被害枝や棚線に残っている巻づるは除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・防除指針：161ページ参照

## 10 カキ（三社）の炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・り病した枝や果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
  - ・発生の多い園地や長雨が予想される場合は、定期防除に加え、QoI剤又はナリアWDGを散布する。
  - ・病原菌の越冬密度を下げるため、り病枝はせん定時に切除する。
  - ・防除指針：167～170ページ参照

## 11 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・現地に設置されたフェロモントラップによる8月5半旬～9月3半旬の誘殺数は105頭で、平年（267.1頭）よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・発生の多かった園地や樹では、越冬幼虫の密度を下げるため、休眠期に粗皮削りを行うとともに、発芽前にマシン油乳剤を散布する。また、発芽前～発芽期にスタークル顆粒水和剤の樹幹塗布を実施する。
  - ・主幹や主枝の基部に古布や新聞紙等を巻きつけ、バンド誘殺を行う。
  - ・防除指針：167～168、170～171ページ参照

## 12 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・台風等強風が予想される場合は、事前にICボルドー412（30倍）散布する。
  - ・多発した園地では、病原菌の越冬密度を低下させるため、10月上旬にICボルドー

- 412 (30倍) を散布する。  
・防除指針： 173、176ページ参照

### 1 3 モモのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・発生が多かった園地では、翌春の発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。
  - ・多発樹では、発芽前のマシン油乳剤散布前にワイヤーブラシなどで削り落とす。
  - ・防除指針： 173、176ページ参照

## IV 花き・球根

### 1 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・一部で貯蔵球根に球根腐敗病の発生がみられている。
    - ・10月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・り病株を除去するなど種球の選別を徹底する。
  - ・地温の高い時期の球根植付けは発生を助長するので、適期の植付けに努める。
  - ・植付け前の球根消毒を確実にを行う。
  - ・防除指針 190 ページ参照

### 2 チューリップの皮腐病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・一部で貯蔵球根に裂皮、皮腐病の発生がみられている。
- (3) 防除対策
  - ・り病株を除去するなど種球の選別を徹底する。
  - ・防除指針 190 ページ参照

### 3 きくの白さび病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・9月25日調査の発病株率は0%と平年(0.3%)並に低かった。



(3) 防除対策

- ・防除指針 192～193 ページ参照

#### 4 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・黄色水盤による8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は546頭で、平年(1,208.2頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 191～210ページのアブラムシ類の項参照

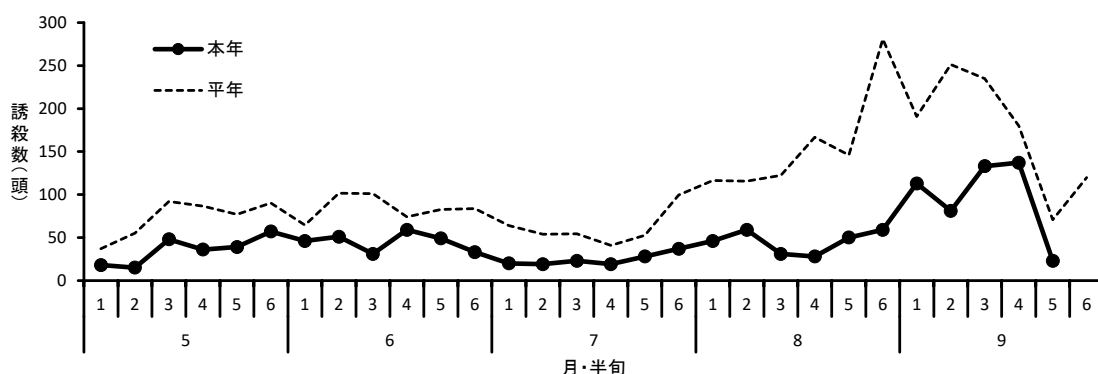


図4 黄色水盤によるアブラムシ類の誘殺数推移

#### 5 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は398.3頭で、平年(469.9頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 198～214ページのアブラムシ類の項参照

#### 6 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが28.7頭で平年(56.2頭)より少なく、オオタバコガも37.4頭で平年(99.9頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 198～214ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

北陸地方 3か月予報  
(予報期間 10月から12月)

9月22日  
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。  
気温は、高い確率50%です。

11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

12月 平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

項目	地域	期間	確率 (%)		
			低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	北陸地方	10月~12月	30	30	40
		10月	20	30	50
		11月	30	40	30
		12月	40	40	20
降水量	北陸地方	10月~12月	30	30	40
		10月	30	30	40
		11月	30	40	30
		12月	20	40	40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)